

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月8日(木)

### 《神様の協力者 ～この世の救いのために～》

神様が人間を罪から救うことを専門的な用語で「救いの歴史」と言います。

旧約の時代の信仰は、イスラエルのある小さな民族「ユダ」で生じた神様に対するイメージから始まります。ところが、イエス様が現れた2000年前からは、一民族だけでなく、民族を超えて、この世の全ての人々が罪から救われるために、どうしたらよいかについてイエス様が直接に見せて下さった歴史を「救いの歴史」と言います。

神様の「救いの歴史」を振り返って見ると、私たちの常識からは少し外れています。神様ならば何でも出来るはずですが、人間を救おうと思われれば、もっと簡単に救えばよいのに、なぜこんなに難しく複雑な方法で救おうとされるのでしょうか。

神様が人間を選び、自分の一人息子を遣わせ、十字架の死に至って復活されて、およそ2000年が流れました。今もその頃と変わらないことが一つあります。その一つが今日の福音(マタイ1・18-23)に書かれています。

神様が人間のためにご計画された「救いの歴史」は、全知全能のご自分の能力だけでなく、必ず協力者を求めている、ということです。今日の福音の場面だけ見ても、とんでもないことに巻き込まれたヨセフ、そして何も分からない乙女であったアリアが協力者として登場します。そしてその前には、イエス様の道を整える洗礼者ヨハネがいました。この3人だけ見ても、どのくらい難しかったか想像ができます。その後、12人の弟子たちが必要とされ、登場します。そして今は、イエス様にとって私たちが必要な協力者なのです。本当にこの世界の救いのために何かを望むのならば、先ず私たちが協力しなければ、神様の計画は無駄になってしまうのです。それを心に刻みましょう。

時々、このような質問をする人がいます。「この世界の将来はよくなるのでしょうか、それとも滅ぼされるのでしょうか。このまま続けられるのでしょうか。」と。その答えは、私たち一人一人みんなが持っています。もし「救いの歴史」に与ろうとする人が多ければ、この世界は何とか生き残れるでしょう。しかし、もし神様の救いに無関心な人ばかりだったら、この世は終りが見えるでしょう。

皆様一人一人が、このヨセフ聖人のように、マリア様のように、他のたくさんの聖人たちのように、神様の「救いの歴史」の協力者になろうとすることが何よりも必要なのです。

ありがとうございました。